

「陵南小学校の玉利の棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

霧島市立陵南小学校

2 学年・人数

小学5・6年生 (計105人)

3 場所・日時

(1) 練習の場所・日時

陵南小学校体育館 (7月～9月下旬), 運動会前の体育学習・総合的な学習の時間

(2) 発表の場所・日時

陵南小学校秋季大運動会 (10月1日)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能, 伝統行事や史跡について

(1) 名称

玉利の棒踊り (たまりのぼうおどり)

(2) 由来

「玉利の棒踊り」は, 明治時代ごろから「五穀豊穰」と牛や馬の「病気退治」を願い, 神社に奉納しながら踊ってきた伝統芸能である。この棒踊りでは, 他の地方・地域で一般的に使用されている「六尺棒」ではなく「ナタ」と「カマ」を使用して踊る。踊りは勇ましく躍動的で「ナタ」と「カマ」を「カチッ」と打ち合い, 火花を散らし, 「踊る人」・「見る人」の意気込みを高め, 心をなごませてくれるのが特徴である。

(3) 構成等

まず二列縦隊で並んだ「ナタ」の列と「カマ」の列が歌者の節回しにあわせて正面を向いて踊り始める。その後, 節が進むにつれて「ナタ」と「カマ」が向かい合い「ナタ」と「カマ」をぶつけ合いながら踊る。そして, 後半部分では, 前後左右の四人組にもなり, 動きがどんどん勇壮になっていく。運動会では入退場や場所移動に和太鼓の「ドンドン……」という響きを取り入れている。

5 保存会や地域との連携の具体

「玉利の棒踊り」は, 昭和30年以前は毎年のように近辺の神社や「田の神様」に奉納されていたが, 踊り手が徐々に減り, いつのまにか廃れてしまった。昭和42年に一度復活したが, 最近まで40年以上, 棒踊りは途絶えたままであった。これまでの経緯を踏まえ, 平成20年5月に会員25名(55歳～80歳)で「玉利の棒踊り保存会」を発足し, 長年途絶えていた棒踊りを40年ぶりに復活させた。会員の皆さん方は40年前の青年時代に棒踊りを経験された有志の集まりである。また, 保存会では棒踊りの保存・伝承活動のために, 年3回の奉納や披露などを計画している。12月上旬には, 年間行事の一つである地区内の「田の神様」へ, 五穀豊穰の感謝と祈願を込め棒踊りを奉納した。こ

の奉納では、昔ながらの「かしわ刺身」, 「かしわずし」, 「煮しめ」などのお供え物が料理され、奉納後にはこのお供え物で懇親会を開催し、会員相互の和や伝承活動への意欲が一層高まった。

しかし、保存会への若い人たちの加入はほとんどなく、現在の会員は高齢のため、保存伝承活動が危ぶまれる現状で苦勞していた。そのような中、平成24年の陵南小学校運動会で、5・6年生全員で「玉利の棒踊り」を地域伝統芸能の表現として、踊り始めたことで、伝承活動に明るい兆しが見えてきた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために、7月には初めて棒踊りを踊る5年生に対して、保存会の方や6年生から間近に「棒踊り」を見せてもらい、全体的な流れと「棒踊り」への意欲を高めている。その後9月に入ると総合的な学習の時間や体育の授業として5・6年合同で「棒踊り」の練習に取り組む。「ナタ」として踊るか「カマ」として踊るかについては本人の希望を大切にしながら、それぞれの所作に合った方で踊るようにしている。基本5年生時に選択したものを2年間踊るようにしており、保存会の皆さんも輪番で学校での練習(週1回程度)を観てもらい踊りにみがきをかけている。

平成25年からは踊り手だけでなく、祖父から孫への「歌者の伝承」として祖父・孫での歌披露にも取り組んでいる。

7 取組の様子(練習状況, 発表の場等)



体育館での練習風景



秋季大運動会での発表風景

8 教職員の感想・意見

地域伝統芸能である「玉利の棒踊り」を5・6年生全員で練習し、運動会本番で保護者や地域の方々に披露することが、子どもたちにとって大変貴重な経験となっています。玉利棒踊り保存会の方々に御指導いただくことで、細かい動きや声の出し方を理解することができ、また、自信を持って披露することができます。今後は、運動会だけでなく、玉利棒踊り保存会の方々が玉利で行っている田の神様奉納に、子どもたちも参加することを検討しています。将来、地元を離れて生活する子どももいると思います。地元を思い出すときに、この「玉利の棒踊り」も思い出してほしいという思いを持ちながら、今後も指導していければと考えています。